

明治維新 150 年 幕末・明治 ―激動する浮世絵

太田記念美術館（東京・神宮前） 2018. 01. 05～02. 25

「太田記念美術館」は、実業界の大立者であった5代目「太田清蔵」（1893～1977）のコレクションを基礎に、1980年に開館した浮世絵専門の私設美術館で、肉筆浮世絵約500点、浮世絵版画約1万点など1万2千点余を収集している。

本展は、2018（平成30）年が明治維新から丁度150年に当たるのを記念して、幕末から明治にかけて制作された「浮世絵約150点」（前後期で展示替え）を展示し、この時代にあわせて激動していく「浮世絵」を楽しむことができる。

<見どころ 1> 激動の時代を見つめ直す

1868（慶応4）年戊辰戦争が勃発して江戸幕府が瓦解し江戸の街は、「東京」と名前を変えて急速な近代化が進み、幕末の動乱を伝える「風刺画」や、近代化した東京の街並を描いた「開化絵」を通して激動の時代を見つめ直す。



左：三代目歌川広重 《東京名所京橋從煉瓦石之真図》（後期展示）

右：小林清親 《鹿兒嶋征討戦記》（前期展示）

<見どころ 2> 浮世絵師たちが描いた西郷隆盛

「西郷隆盛」といえば、普段着に犬を連れた上野公園の銅像が有名であるが、明治時代の浮世絵には「西郷隆盛」の姿がさまざまな形で描かれている。

<見どころ 3> 月岡芳年、小林清親、注目される浮世絵師たちの紹介



「月岡芳年」は歴史画を得意とし、「小林清親」は光と闇を巧みに表現した風景画を描き、他にもさまざまな浮世絵師たちが活躍し、激動する時代に見合った絵画表現をそれぞれ追求していた時代の活躍状況を紹介している。

月岡芳年 《芳年武者无類 源牛若丸 熊坂長範》（前期）
平安時代末期の大盗賊京都の豪商「金売吉次」が奥州の「藤原秀衛」のもとへ下る途中に、「吉次」の荷物を狙う「熊坂長範」らが美濃青墓の宿に夜討ちし、同道の「牛若丸」に討たれたとも伝わっている。